

1. 赤竿を作る

まずシノ竹の竹ヤブをみつけておきます。秋になったら100本ほどシノ竹を採ってきます。現地で枝を払い1メートル50センチぐらいの長さに切りそろえて束ねて持ってくるのがいいでしょう。⇒都会ではシノ竹を探すのは困難なので、**DCM カーマで女竹 (10本 382円)** で購入する 売り場が、「園芸支柱」コーナーにあります。



布屋さんに行って、赤い布地（安いやつ、材質は綿がよいでしょう）を買ってきます。**赤い布を幅5センチ長さ30センチぐらいの短冊**（以下：赤布）に切りそろえます。**赤布の両側に5センチぐらいの縦向きに穴をあけます**。一方の穴に紐を通して赤布30枚ぐらいを一まとめにして束ねます。一枚の赤布を引くと布が裂けて束から一枚だけ取り出せます。反対側の裂き穴は破けていないので、これを利用して短冊を木の枝にタイオフします。

布屋さん：名東区なら極楽の「布伝説」 東区の「大塚屋車道本店」
手芸店「Tokai トーカイ」 1m880円 11号帆布無地



ホワイトアウトが予想される森林限界に出て行動することが予想される場合は森の中にいるうちに、**100メートル程度おきに樹木の枝に赤布をタイオフ**（以下：赤布を打つ）して目印をつけて先に進みます。**シノ竹には事前に赤布を結びつけて携行**します。ハーネスにかけて携行します。森林限界に出て一切樹木がなくなったら**30メートル程度おきに赤布をつけたシノ竹を雪面に刺して立てながら進みます**。もしホワイトアウトしたら、赤布をたよりに戻ります。**可視光の中で最も波長の長い赤色はホワイトアウトの中で最も目立つ色**なのです。



…赤布を山に残して来て良いかと問われれば、自然保護の観点などから考えるとノーグッドです。ですが現在は赤布を打って登りそれを回収しながら下ってくる登山者の方が少ないようです。

2. スノーバー

スノーバー はアルミアングルL字型に曲げて先を尖らせた物で、雪面に射し込んで雪壁登攀でランニングビレイポイントに使用したり、ビレイポイントでアンカーに使用したりする。その他も雪面等の状況に合わせて複数の使い道がある。基本的にある程度締まった雪面には効果があるが柔らかい雪面にはデッドマンを使う方が好ましい！

安全性を高める為にビレイポイントでは2本打込みスリングで流動分散させた支点を作り環付きカラビナをセットして懸垂下降等に使用したりする。

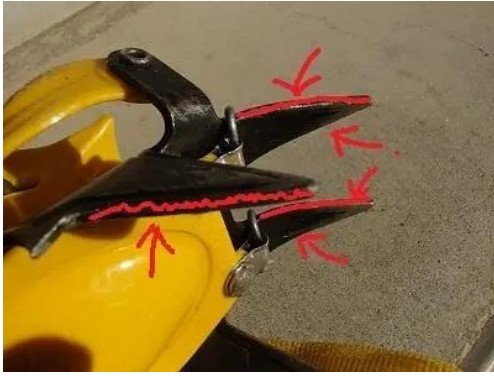
アルミアングル 3mmを購入する（普通のカーマでは2mmしか売っていないので、プロ用・職人用の店で購入する）

アルミアングルを切断し、穴をあけるには工務店など設備が有るところで加工してもらう。



3. アイゼン・ピックルの研磨

間違っても角を丸くしたり、平面を研いだり、先端だけを研いだりしないように！



研ぐ面に対して、きれいに平行に研ぐために、1回ごとに押して研ぎます。鋸で切るときのように前後させると、押すときと引くときで角度が変わることが多く、たいてい面が丸くなります。

なので、押し当てて研いで、また戻して、押し当てて研ぐという作業を繰り返します。

先端が丸すぎてなかなか研げない。

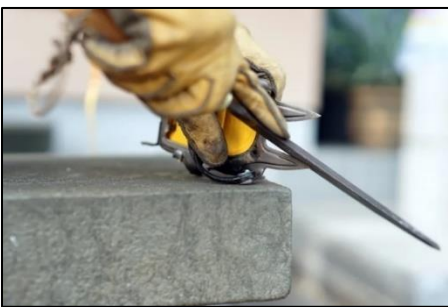
こんなときは、頑張っただけでは研ぐしかないので、アイゼンの爪の場合、若干先端部分を深めに削っていきま（三角図）。あまり削りすぎると鈍角になってしまいますが、先端部分ですこしカーブさせても良いですが、徐々に先端を深めに削っていくのがいいと思います。



<準備するもの：ヤスリ、皮グローブ>ヤスリはホームセンターで購入する



磨き方は、コンクリートブロックなどの角に合わせて、ヤスリで研ぎます



ピックルの研磨

研ぐ前のピック

1- ピック先端の歯の下側を研ぐ
アックスを逆さ向きにして方に固定します。ピックの元々の角度に合わせて、ピックの垂直方向にゆっくりとやすりがけします。ピックを長く使用するためには、研ぐ金属の量を必要最低限にする必要があります。

2- 先端を研ぐ
元々の角度になるように、先端の角をやすりあげします。

3- 先端を整える
鋭角を作らないようにしながら、先端の側面を研ぎます。中心部分に0.5mm程度の平らな部分を残してください。これにより、効率性を損なうことなく、製品寿命を長くできます。保管する前にピックに軽く潤滑剤を塗り、余分な油を布で拭き取ってください。